

令和4年度 第16回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

令和4年11月24日（木）

2 会議の場所

仙台法務局名取出張所2階 名取市教育委員会 第4会議室

3 出席者

市長 山田 司郎

教育長 瀧澤 信雄

教育長職務代行委員 荒井 龍弥

教育委員 浅野 かおる

教育委員 洞口 ひろみ

教育委員 長澤 裕司

4 欠席者

なし

5 傍聴者

なし

6 説明のために出席した者

黒川理事兼学校教育課長、下山教育部次長兼教育総務課長、八森閑上小中学校長、柴崎図書館長、佐藤生涯学習課長、中島文化・スポーツ課長兼市史編さん室長、宇田教育部企画員兼教育総務課長補佐、宇津井教育総務課主幹兼教育総務係長

7 議題

- (1) 義務教育学校開校5年目にあたっての成果と課題について
- (2) 名取市図書館開館5年目にあたっての成果と課題について

8 開会時間

午後1時00分

9 会議の概要

下山教育部次長兼教育総務課長

それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

本日の会議は、原則公開となっておりますので、ご了承願います。

それでは、ただいまから会議を開催いたします。開催にあたりまして、山田市長からご挨拶を申し上げます。

山田市長

本日は、大変お忙しいところ、第16回となりました総合教育会議に、瀧澤教育長をはじめ教育委員の皆様にご出席いただき、ありがとうございます。

昨今は、3年目になります新型コロナウイルス感染症への対応を始め、ウクライナ情勢、デジタル化や自然災害、円安など、我々を取り巻く環境は目まぐるしく変化をしております。市としても、これまで着実に積み上げてきた部分、それから、大胆に変えていくような視点、両方を持ち合わせてしっかりと業務にあたっていきたいと思っております。

本日の総合教育会議のテーマは、「義務教育学校開校5年目にあたっての成果と課題について」と、「名取市図書館開館5年目にあたっての成果と課題について」としました。

閑上小中学校と名取市図書館は、それぞれ平成30年の4月と12月に開校・開館しておりますが、当時から環境は大きく変わっており、時代に沿った対応が求められていると認識しております。

本年で5年目を迎えるにあたり、これまでの取組の成果と、今後の課題について、委員の皆様方から忌憚のない御意見を賜り、市政発展のための方策とさせていただきたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

下山次長兼教育総務課長

それでは、3の議題に入ります。ここから先は、名取市総合教育会議設置要領の第4条第3項により、市長が議長として議事を進めさせていただきます。山田市長、よろしくお願いいたします。

山田市長

それでは次第に沿って進めてまいります。よろしくお願いいたします。

まず初めに、議題(1)義務教育学校開校5年目にあたっての成果と課題についてであります。

事務局から、資料に基づいて説明をお願いします。

瀧澤教育長

それでは、私と八森校長から説明させていただきます。お手元の資料と、テレビの画面で説明させていただきます。

こちらは、開校式の時の様子となります。

閑上小中学校は、学校教育法等の改正により、「義務教育学校」という位置づけで開校しております。名取市内の学校ですが、閑上小中学校開校前は資料左側のような状況でしたが、閑上小学校と閑上中学校が一つの「閑上小中学校」となったことから、現在は右側のような学校の構成になっております。

閑上小中学校の基本構想は、ここに掲げている3点を平成26年4月に策定し、それに基づいて教育計画を策定しております。1点目の「魅力ある、特色ある学校」の具体的な内容としては、上2つはハード面での工夫です。下2つは教育課程、ソフト面の内容になりますけれども、9年間を見通した教育課程、4・3・2制、教科担任制の導入などがその柱となっております。校舎配置は、まず普通教室は2階に4・3・2の4にあたる1～4年生、3階に3・2にあたる5年生から9年生の教室が配置されております。さらに、2階、3階それぞれに、特別支援学級を、今年度は6学級配置しております。また、4階は避難場所としても活用できるランチルーム、備蓄倉庫などがあります。屋外には2箇所の避難階段も設けてあります。

魅力ある、特色ある学校の一つとして、閑上小中学校では異学年の交流を積極的に行っております。ねらいとしては、思いやりの心を育てたり、リーダー性を養うということで、主として学校行事等の中で異学年交流を積極的に取り入れております。資料はその様子ですが、1年生を迎える会、縦割り活動、それから、他の学校では見られない、小学生にあたる児童が中総体の壮行会に入るといふことも行われております。

9年間の流れですけれども、4・3・2、という、多くの義務教育学校で取り入れている形を取っております。入学式は1年生、卒業式は9年生の時。ただし、9年間の生活に変化がない、というようなデメリットも指摘されます。そういったことを解消することをねらいとして、4年生の時に1/2成人式、7年生の時に立志式を行って次のステップに移る意欲を持たせるなどの工夫も行っております。

画面は、今年度の入学式と昨年度の卒業式の時の様子です。次が1/2成人式、次が立志式の様子です。

教科担任制についてですが、主として5年生、6年生に中学校の教員が指導するという教科担任制を積極的に取り入れております。資料の4枚の写真は、普通の小学校や中学校と同じように教科担任が中学生を指導し、学級担任が小学生を指導する学習風景です。閑上小中学校ではこのほかに小学校にあたる3年生、4年生などで専科の先生が教えるという授業のスタイル、それから、5、6年生では中学校教員が指導するという授業スタイルも取り入れております。

今年度の教科担任制の実施状況ですが、1年生、2年生でも一部専科を取り入れております。3、4年生になりますとその時間が増えてきており、5、6年生になるとピンクで示しているところですが、中学校の教員が指導しているところで、音楽、図工、体育、家庭などの教科を中学校教員が指導しております。また、まだ一部しかできておりませんが、赤くなっているところ、このところは小学校教員が中学校の外国語を指導するというも行っております。ただ、免許の関係で、なかなか多くはできないのが現状です。

この、魅力ある、特色ある学校の成果と課題について、八森校長からお話いたします。

八森閑上小中学校長

成果につきましては、児童生徒も教職員も、全ての学年の活動や授業の様子を見ることができ、自然に異学年交流が図られており、教職員の授業力の向上にもつながっていると考えております。

教職員が一つの学校であることを意識しているとともに、9年間を見通すことができている。これは校舎の造りにも関わっていますが、常に全ての学年を見通せるということは成果としてあがっております。

それから、5、6年生に教科担任制を入れていることで、全体が見えているということもあり、中一ギャップということは発生しておりません。

課題としては、市内全域から子供たちを受け入れているということもあるのですが、支援学級の子、また、普通学級にいる特別に支援が必要な子が増えていて、人手が必要になってきております。

また、校舎がオープンになっているのですが、特に9年生が実力テストなどのテストを行っているときに、1年生から4年生の声が上まで響いてしまうということがあり、9年生はできるだけ階段から離したり、放送委員会を使って、その日の朝に「今日はテストがあります」ということを伝える活動をして、大分落ち着いてテストができるようになってきております。

5、6年生が一部教科担任制をやっているのですが、年度によって配置されている教員の所持免許により、教科を変更せざるを得ず、統一して同じ教科をずっと、ということができない、ということがございます。

以上です。

瀧澤教育長

それでは、2点目の柱である「地域とともに歩む学校」については、「閑上学」の創設、地域とのつながり、地域活動への参加等に取り組んでおります。

閑上学についてですが、どこの学校でも、地域に関する学習は行っております。それら9年間の地域に関する学習を連続性や系統性を考えて一つのカリキュラムとして作ったのが閑上学です。最終的には、郷土について考えることを通して生き抜く力を育むということをねらいとしております。

地域とともに歩む学校ということでは、地域との合同の防災訓練を毎年行っております。コロナで一時中断しましたが、本年度は行っております。

地域と合同の運動会は、令和元年度に行ったのですが、まだコロナの影響で行っていないのですが、来年度はぜひ実施したいと考えております。

この点についての成果と課題について八森校長からお話いたします。

八森閑上小中学校長

成果についてはいくつかそこに書かせていただきましたが、特に3つ目の地域学校協働活動がスタートして、公民館に協力をいただいて、大変スムーズに進んでいるところです。例えば8年生で職場体験学習をするのですが、例年ですと教員が全ての研修先を選考し、開拓しなければならなかったのですが、それを全て公民館で担っていただき、事前にマナーアップ教室を設定していただくなど、大変スムーズに進んでおります。

また、子供たちのなかでこどもファンドを利用してごみゼロプロジェクトということで、地域での取り組みも進めております。

開校前には、市内全域から通学するので、閑上の地域学習というものは保護者に受け入れられないのでは、ということも懸念していたのですが、そんなことはなく、ご理解いただいて進めております。しかし、休日に地域の行事があった時に、子供たちがなかなか参加できない、興味関心が薄いということもあるのかもしれませんが、来たくても足が無い、ということもあり、課題として挙げております。

以上です。

瀧澤教育長

それでは3つ目の柱である地域防災拠点としての学校という点についてですけれども、防災カリキュラムを通しての防災教育、地域の防災意識を啓発すること、それから、下2つはハード面で、津波避難ビル機能の充実などを図っております。

一つ目の防災教育についてですが、閑上小中学校だけではなく、市内全域で名取市独自の防災カリキュラムを作り、平成28年度からこれに基づいて防災教育を行っております。同じように、これも市内全域ですが、毎月11日の月命日を「防災学習日」として、防災に関するなんらかの取り組みを全ての学校で継続して行っております。

資料はハード面、施設ですけれども、屋外階段、約1,000人が一時避難できる屋上、プールの水を飲料水にできる施設、それから、郷土資料室には旧閑上中の時計なども掲示しております。

この点の成果と課題について八森校長より説明いたします。

八森閑上小中学校長

成果について何点かあげておりますが、特に学校主体で地域の防災訓練を今年は実施しました。地域の方に集まっていただきましたが、7年生以上が避難所運営にあたって、子供たちが避難者の名簿作成などをする事によって、子供たちの防災意識は高まっていると感じております。将来、地域における防災リーダーとして活躍してもらえるかな、と思っております。

また、防災リュックということで、子供たちが家でリュックに飲料水や常備薬、カイロやバスタオルなどを詰めて、それを学校に持ってきて、防災倉庫に入れております。いざという時のために、子供たちが家の人と準備したんだ、ということで、心細くならないようにという考えでやっており、毎年1度中身を変えてくるのですが、そういうところでも成果が上がっていると考えています。

課題としては、防災教育で地域の方に震災の時の話をいただいているのですが、4年生以下の学年については、地域の方が説明しづらいということがあります。どこまで、どう話しているかわからない、ということで、そこは私が今はやっておりますが、将来的にはそこを考えていかなければならないかな、と考えております。

また、新しい津波想定区域が出ました。それに対して対応はして、今までは2階以上だったのが3階以上ということに変更になりました。詳細を現在検討し、修正をかけているところです。また、地震などが起こると停電でエレベーターが止まってしまい、4階まで高齢

者の方が避難階段で上がるのは大変だ、ということが課題としてあります。

以上です。

瀧澤教育長

閑上小中学校ですが、今年度はこの表のように全校で418名の児童生徒が通っております。4年生までが2学級、それ以上は1学級、特別支援学級は6学級あります。

そのうち半数以上の218名は指定校変更により、学区外から通っております。全校の児童生徒数は下にありますように、開校当初の140名から3倍近い児童生徒数になっております。通学方法ですけれども、学区内から通っているのは徒歩・自転車で200名ほどおります。また、以前は学区外から被災した児童生徒が仮設やみなし仮設から通うケースもありましたが、現在は無くなっております。それから市で予算をつけていただいているスクールバスですけれども、今年度は200名がスクールバスを利用して通っております。そのほか、18名が家庭の送迎や自転車で通っているという状況です。生徒数の増加、通学手段の確保等、これからも児童生徒数の増加に伴う色々な対応が必要になると考えております。

説明は以上です。

山田市長

ありがとうございます。ただいまの説明を踏まえ、協議を進めてまいります。

初めに、ただいまの説明で確認しておきたい事項や、その感想なども含めて、何かあれば、お願いします。

長澤委員

開校から3倍の児童生徒数となったということで、今後のキャパの見通しなどはどうなっているのでしょうか。

瀧澤教育長

閑上小中学校は設計当初から1学年2学級まででは対応できるということで設計をしております。ただし当初は1学年1学級だった学年が毎年2学級の学年が増えてきて、多目的教室や更衣室を普通教室に転用するというような工事を行いながらやってきておりますが、場合によっては、今小学校1年は35人学級ですので、71人を越すと、3学級にしなければなりません。その辺の受け入れが可能かどうかということについては、今後色々な角度から検討をしていかなければならないと考えております。ただし、当面は2学級で推移するのかな、とみております。

長澤委員

分かりました。

山田市長

他に何かありますか。浅野委員いかがでしょうか。

浅野委員

9年間ということで、中1の壁、ギャップの緩和・解消にはなっているというお話で、そのために、1/2成人式や立志式をやっているということで、先生から見て、子どもたちはメリハリがついているな、と感じるようなことはあるでしょうか。

八森閑上小中学校長

1/2成人式、立志式を行う事で、4年生、7年生のリーダー性が育っていると感じます。開校前に、6年生が育たないのではないかと、という懸念もありました。普通の小学校ですと、6年生がリーダーになるところなのですが、それが無く、全てが9年生がリーダーになるのではないかと懸念されたのですが、逆に、4年生、7年生にリーダーが育っていると感じます。

これは、4年生まで前期、7年生が中期、8、9年生が後期としてそれぞれでの活動をしている中で、4年生と7年生がリーダーシップを発揮しておりますし、1/2成人式に下の学年の子どもたちも出るのですが、それを見て、よし、来年は僕たち、私たちは4年生になったらこうやるぞ、とか、また、様々な活動の中で4年生がリーダーとなっているところを見て、3年生が、来年は僕たちが頑張るぞ、という気持ちが表れているな、と感じます。

浅野委員

もう一つ、入学式が1年生、卒業式が9年生ということでの、他の学校での6年生の卒業式や中一の入学式が無いという部分で、保護者さんや、子どもたち自身が、他の学校の生徒との交流時に、そういうものが無くて淋しいというような感触はあるのでしょうか。

八森校長

どちらかというと、入学式、卒業式というよりは、6年生の修学旅行が無いというところが大きいです。なので、宿泊が伴う事はしていないのですが、6年生に研修旅行と称して、仙台市内で自主研修をさせたり、という取り組みをしております。

山田市長

1/2成人式ですが、成人の概念が変わるので、どのように呼称すればいいのでしょうかね。細かい話ですみませんが。

瀧澤教育長

教育部内部でも話題になりました。「1/2 二十歳を祝う会」ではちょっとどうなんだろう、と思っておりました。

山田市長

タイミング的には4年生がいいのですよね。

八森閑上小中学校長

そうですね。

瀧澤教育長

今年度中に名前を検討したいと思います。

山田市長

それでは、他にありませんでしょうか。荒井委員いかがでしょう。

荒井委員

私は感想ですが、9年間同じ先生たち、学校で見ていくという中で、子供たちが安定的に勉強等にまい進できるというのはとてもいいのかな、ということと、一方で、人間関係がどうしても狭くなりがちだ、という声も一貫校にはあるわけで、その点、閑上では、地域の方々や、周囲に活動を広げる取組を行っているということはすごく価値のある事と感じました。今後、人が増えたと思うので、新しい住民の方にもお子さんはいると思うので、新しくいらした方々と今までいらした方々の融合もお子さんを介して、学校が核になって融合を図っていく、ということが必要になっていくのかなと感じた次第です。今後ともよろしく願います。

八森校長

あの一体に、学校、保育所、認定こども園、児童センターが一角にあるということで、子育て世代の方が家を求めてやってくるのが多くなっておりますので、新しい方が多いのですが、町内会でもその方を受け入れよう、引き込もう、ということで、住民の方も町内会で色々な活動をしていただいているところです。

山田市長

学区が市内一円になっていることで、閑上学に理解を示していただいているけれども、休日にイベント等、地域と交流をするときになかなか足がなくて参加かしにくい、という面があるのではないかと、とか、防災関係でいえば、日曜日に防災訓練があった時に、他地区、いわゆる学区外からの保護者の参加はどうなっているのか、とか、全域が学区になっていることに対しての何か感じていることがあれば願います。

八森閑上小中学校長

地域と合同の防災訓練というのは、閑上地域と学校とでやっていて、正直私は市内全域ということは考えていませんでした。学校で休みの日に防災訓練を行う時には、スクールバスを出すので、地域の防災訓練とは違うので、保護者の参加はありません。

山田市長

いざという時に、子供が自らと、地域の方と協力して、災害時には対応しなければならない、それは保護者がいなくて当たり前ですが、どういう防災教育を地域とやっていくのか、ということ保護者の方は知りたいのではないのでしょうか。そういう声は無いですか。

八森閑上小中学校長

どのような活動をした、とか、どんな活動をする、ということは、学校だより等で紹介しておりますが、それに対して保護者から何か問い合わせがあったということはありません。

山田市長

意外と淡白ですね。半数以上の子が学区外から来ているのに。

八森閑上小中学校長

引き渡し訓練は行っているんで、その時は全域から迎えに来てもらっています。

山田市長

なるほど。ありがとうございます。洞口委員何かありますか。

洞口委員

5年目となって、入学式から卒業するまで9年間、中に1/2成人式と立志式があるということですが、やはりメリハリとして、今後、中学校に上がるころ、7年生か8年生辺りで、企業が閑上にもたくさんありますし、近辺でも仙台空港もオイルプラントとか、企業が色々ありますので、そういう企業のお話などをやっていただきたいと思います。例えば仙台空港のパイロットのお話を聞くとか、そういう話を聞けば、子どもたちもわくわくできるのではないかと思いますので、楽しめて勉強できるような形がいいかな、と思っております。

それから、小学校の高学年ぐらいで、他校との交流会を進んでやっていけば、他の学校の雰囲気などが分かるのではないのでしょうか。閑上とは少し地域的には離れてある学校になっていますので、他の学校の様子とか、先生の意見とか、そういう交流なども進めたいという意見です。

山田市長

先ほどお話あったように、一貫校は人間関係が狭くなりがち、という傾向があるやに言われておりますけれども、その点はいかがでしょう。

八森閑上小中学校長

今のお話の、仙台空港の活用というところまではまだ行っていません。ただ、職場体験では、閑上の企業を中心に、ほぼ閑上で行っていて、直接体験することによって、働いている方からいろいろなお話を聞くことができます。ただ、今お話があったとおり、もっと

広い範囲で考えてもいいのかな、と感じております。

他校との交流については、今年ちょっとできないでいたのですが、去年は増田中学校の生徒会と、閑上小中学校の児童生徒会の交流がありました。

山田市長

ありがとうございます。

では、一部入っておりますが、今後の義務教育学校のありかたについて課題に対するご意見・ご要望をいただければと思います。

まず、私から、先ほどの、企業との連携というか、閑上地区に今月末に牛タン屋さんの工場ができたりとか、これから産業用地のところ色々な企業が出てくるということで、まさに職住近接のまちになるので、そういった、立地してくる企業の工場の見学であるとか、仙台空港まで6キロであるので、空港の視察とか、その土地ならではの部分を教育に生かしていただけないか、ということで、他の事でも言えることですが、ここでやって良かったことをぜひ他の学校にも波及していけるような、同じような考え方で愛島であれば愛島台があるので、閑上だけではなくて、市内全域に同じような考え方で、地域の特性を生かした部分を波及していただければと思いました。先ほどのリュックサックについても、同じ津波浸水想定の下増田小学校ではどうなっているのだろう、とか、リュックは保護者負担になるのでしょうか。

八森閑上小中学校長

そうです。

山田市長

であれば、一定の理解が必要だとは思いますが、そういったこともあるので、閑上から、他の学校に波及していけるように、せっかくの人気校になっているのですから、そこはぜひお願いしたいと思います。

瀧澤教育長

企業については第二中学校で行っている仕事博覧会とか、先進的な取り組みがありますし、どの学校でもキャリア教育という形で、仕事体験などはやっているのですが、今市長さんからお話いただいたように、多くの企業も進出してきているので、地元の企業と、教育面で関係を持てないか、ということは学校とも話していきたいと思っています。

また、閑上学について、私のイメージとして、他の地区にも広げたいという思いはあって、高館で尚綱大学と連携して「高館学」という取り組みを始めてはいるのですが、まだ形になるところまでは行っていません。ただ、閑上小中の良さ、小中一貫という形は取れませんが、他の学校にも良さは広めていきたいと思っています。

山田市長

なるほど。そういった観点から荒井委員いかがでしょうか。

荒井職務代行委員

子どもたちが各々の課題を捉えて自ら解決していくことをサポートできればいいのではないかと感じておりました。そのためにも、9年間一貫というのは、そういうことに粘り強くアタックできるメリットがあると思っております。閑上学ももちろん大事なのですが、自身の課題を掘り起こしていくとか、見つめていくとか、そういったところが一つの軸になっていくといいのかな、と思います。

八森閑上小中学校長

子どもたちが自分自身の課題を9年間で解決していくということですね。ありがとうございます。

山田市長

長澤委員いかがでしょうか

長澤委員

義務教育学校のシステム上の良さというところを十分に発揮されていると思います。このカリキュラムしかり、また、4・3・2制の良さも生かしていただいております。私がこれから期待するのは、保護者の声というのも、いい声が色々聞かれています。そういったものもより広く発信してもらいたいということと、子どもたちに、閑上学などを通して自分の学校の良さというものを含めて、プライドを持って、外部にも発信するというスタンスで、ますます素晴らしい学校づくりを行っていただきたいと期待しております。

八森閑上小中学校長

保護者からはいろいろお話をいただいていて、最初のころは、小規模できめ細かな指導を希望します、という方が多かったのですが、最近は規模が大きくなってしまい、一クラスの人数が多くなり、難しくなっているのですが、やはり、うちの学校を希望してくれる子どもたち、保護者が多いので、学校づくりに取り組んでまいります。

それから、先ほど説明しなかったのですが、実は先生方にも大変いいと感じております。開校前には、小学校文化・中学校文化の違いで、学校づくりは大変だ、という話であったのですが、実際にやってみると、校内研究なども全部一緒にやっていて、それぞれがいいところを理解して教育活動を進められているな、と感じているところです。先生方にとってもいい学校にしたいと考えております。

山田市長

ありがとうございました。

時間の関係もありますが、最後、キャパの話もありましたね。特別支援の教室の関係もあ

るでしょうし、学区の考え方もあると思いますが、今答えは出ないとも思いますが、1 学年 2 クラスを超えるような状況になってくる見込みが出てきた場合にどうしようかというのはいろいろ考えていかなければならないですね。

瀧澤教育長

去年あたりから、将来 3 学級になるような人数が入学してきたら、ということは考えております。当初は入学については来るもの拒まず、という事で、全て受け入れるというスタンスで説明会でも 2 学級までのキャパはあります、という説明はしてきたのですが、それを超えそうになった場合に、何らかの制限という事も含めて、今後具体的に検討していかなければならないと考えております。その辺は、教育委員会内部で、また、市長部局とも調整しながら検討していきたいと考えております。

山田市長

ありがとうございました。以上で、議題(1)を終了とさせていただきます。
次の議案に移りますが、ここで説明員入替のために暫時休憩します。

(説明員入れ替え)

山田市長

それでは、再開いたします。次に、(2)名取市図書館開館 5 年目にあたっての成果と課題についてを議題といたします。事務局の説明をお願いします。

柴崎図書館長

それでは私から「名取市図書館開館 5 年目にあたっての成果と課題について」ご説明します。

資料は、平成 30 年 12 月中旬に開館した図書館のオープン時の写真です。左側がビルのグラウンドオープンの写真、右側が翌日開催しました図書館開館式典の写真となっています。

名取市図書館を新しく開館させるにあたって、サービスの基本理念を「地域を支える知の拠点」といたしました。その下に、基本方針として 5 つを設けまして、この 5 つを図書館の目指す姿として新しい図書館のスタートを切りました。

現在までの図書館の状況について説明いたします。まず、蔵書状況です。令和 3 年度末数字です。図書資料については、一般用児童用併せて 217,359 冊となっております。こちらの数字については、蔵書計画のとおり、順調に増えております。視聴覚資料については、4,864 点、雑誌は 138 タイトル、うち、雑誌スポンサーによる寄贈の雑誌が 25 紙ありました。現在も増えておまして、今日現在 31 紙の雑誌をスポンサーからいただいております。また、新聞は 16 紙取っております。

次に利用状況になります。まず来館者数になりますが、オープン当初は珍しさで来館する人が多かったのですが、元年度からは落ち着きまして、元年度は 1 日あたり 1,016 人でした。

ただし、令和元年度の3月がコロナで1カ月休館しましたので、最終的な数字は28万人でしたけれども、休館が無ければ開館前に想定していた30万人という数字は達成できたと思われます。2年度、3年度についてはコロナの影響によって来館者が激減しておりますが、今年度になりまして、今のところ一日平均879人ということで、少しずつ持ち直しているのかな、と思っているところです。また、来月12月上旬には来館者100万人達成される見込みとなっております。

次に貸出数です。やはり、30年度、開館した当時は来館者が多かったので貸し出しも多かったのですが、それ以降、元年度から令和4年度まで、一日平均1,600冊から1,700冊ということで、こちらはコロナでの影響は受けていない、むしろ微増かと思うような状況になっております。

次は、年代別の個人貸出数です。こちらがご覧になっていただくと一目瞭然なのですが、中学生と高校生の貸し出しが極端に少ないのですが、中学生と高校生は学習目的で来館しているのがとても、他の年代よりも多く、来館していることはしているのですが、それが貸し出しに結び付いていないという状況になっております。ただし、そういう、図書館に来ている中学生・高校生にも、本に興味を持ってもらって、本を手を持ってもらいたいと思っておりますので、こちらのほうとしましても、展示等、様々な工夫が必要かな、と思っております。

30代、40代になると、子供を連れて、ファミリーで来館する姿もとても多く見受けられます。

次は、その他の利用状況です。令和3年度は登録者が28,696人、新規登録者数が2,504人、そのうち市外が1,224人と、約半分が市外からの登録でした。また、延べ利用者数は132,358人、リクエストについては、令和3年度については34,496件、元年度と比較すると1.5倍、レファレンスについても1,986件と、元年度と比較すると約2倍近く増えております。

それから、身体に障がいがあるなどして来館が困難な人に対しては、配送サービスというものを行っておりますが、こちらは昨年度の利用者は3人でした。利用回数、貸出数についてはこちらの表のとおりとなっております。

次にイベントの開催状況になります。「なとと」という友の会があるのですが、図書館は「なとと」と共催、あるいは協力をもらって年間120回以上のイベントを開催しております。こちらにあるのは昨年開催したものになりますが、参加者数は子供向けが1,422人、一般向けが1,472人という状況になっております。この中でひとつだけ代表的なものを紹介します。

「ナイトライブラリー」という、「なとと」主催のものがあります。こちらは平成元年の5月から始まって、毎月最終金曜日の閉館後にカフェを使って開催しているものになりますが、こちらの趣旨としては、カフェというリラックスできる空間で、大人の人たちの知的好奇心を刺激するような内容のお話を、毎回外からゲストをお招きしてお話をさせていただくという、そういうものになっております。主に、名取市内で活躍している人をお招きしてお話を伺っておりますが、音楽、コンサートなどを催すこともあります。ちなみに明日は、がんセンターの佐々木副院長先生をお招きして、がんについてのお話をいただくことになっております。これまで37回開催して、1,400人以上の人が参加しております。

次は、「なとと」について説明します。

「なとと」はもともとは震災後、図書館でボランティアをしていた人たちの集まりなのですが、平成 29 年度に市民を交えて友の会設立を視野に入れたワークショップを開催しました。その後、友の会設立準備委員会を発足させて、30 年 5 月に正式に発足しております。現在の会員数は、10 月末で 158 人、その後増えて、今日現在は 161 人となっております。

具体的な活動内容ですが、イベントの企画・開催・それからボランティア活動、「なとと通信」の発行などがあります。ボランティアの種類は 7 種類ぐらいありますが、それぞれグループを作って活動しております。そのほかに館内の装飾であるとか、また、昨年、おととしと地震がありました。地震で落下した本の片付けに、すぐに、たくさんの方に集まっていた。あっという間に片付いたという事もあります。

次は、課題です。私が課題として捉えていることを大きく 3 つ、そしてそれぞれに 3 つ書きましたので、そのお話をさせていただきます。

まず、課題の大きな 1 つ目として、市内全域での図書館サービスの提供というところです。現在、那智が丘・ゆりが丘・相互台の公民館には、職員が隔週で巡回して、貸し出し・読書相談などを行っておりますが、開催時間が 45 分しかなく、持っていく本も 200 冊程度なので十分なサービスが行えているとは言えないのではないかと考えております。

それから、公民館図書室内の本の貸し出しや、公民館でのリクエストの受け取りなどは、公民館の職員にお願いして行っているところなのですが、その業務に対しての考え方は公民館ごとに違いがあるので、とても熱心にやっているところもあれば、そうでないところもあります。

それから、公民館図書室にある本を魅力的なものにしたいということで、職員が年に 3・4 回程度、部分入れ替えを行っていますが、これもまだ十分とは言えないと思います。魅力的な本を持っていくあまりに、その本にリクエストがかかることがとても多くて、リクエストがかかってしまった本を公民館の職員が図書館に送ってくれる、ということになっているのですが、そういうものが増えれば増えるほど、公民館の職員に負担をかけてしまうという事もあります。全域サービスというものを考えて、公民館を拠点にやっというところとすると、どうしても公民館職員に負担をかけてしまうというジレンマがあります。

次、2 つ目の課題ですが、学校との連携になります。年間 3 回ほど、学校と公共図書館合同の研修会を開催していますが、図書館司書と小学校図書館司書との情報交換の場がそれ以外無く、お互いの業務を理解し合うという事が難しい状況になります。

次、図書館を使った調べるコンクールは、既に 7 回ほど開催しておりますが、まだまだ学校には認知されていない状況で、応募数が増えないというのが悩みです。

それから、学校で調べもの学習をするときに、大量の本を団体貸出するのですが、それを届ける物流の仕組みが無いというのも課題となっております。たくさん、何十冊、100 冊以上の本を貸出することもあるのですが、そういうものを貸出するときは学校の職員に取りに来ていただかなければならないという状況になっております。

3 つ目としては、友の会との良好な関係の継続というものを挙げました。

一つ目としては、職員と友の会の間に距離があり、お互いにパートナーシップをもって活

動しているという意識がそれぞれ希薄なところがあるように見受けられます。

それから、ボランティア活動がとても活発になってきているのですが、現在のボランティア室では手狭になってきているので、グループによっては公民館を借りて活動しているという状況です。

また、友の会の方の問題になるのですが、役員が高齢化しているのです、世代交代に向けた準備が必要ではないかと感じているところです。

説明は以上です。

山田市長

ありがとうございました。

では、最初に只今の説明で確認しておきたい事項や感想があればお願いします。

浅野委員お願いします。

浅野委員

課題のところ、友の会のところですが、図書館というのは市民にとっては特別な場所だと私は思っているのですが、図書館ボランティアというのは気軽にできるし、自分も楽しんで登録される方が多いのかな、と思って、ありがたい事だと思うのですが、課題の①の職員と友の会との間の距離があり、お互いにパートナーシップをもって活動しているという意識が希薄、というのはどういう部分でお感じになられるのでしょうか。

柴崎図書館長

どちらかという職員側にその傾向があると思うのですが、お互いそれぞれにパートナーシップがある、という事が、理解できない職員もいて、へたすると、ボランティアさんは、図書館職員の下請け、のように思ってしまうところがあるので、そうではないのだ、ということ職員には言っているのですが、どうしても自分の仕事を手伝ってもらいたい、と。そうではないんだ、と。やはり、職員と友の会の人たちの交流の場が現在なかなか作れなくて、例えばお祭りなどはそういったことができるいい機会と思うのですが、なかなか職員がお祭りに参加して、という事がなかなかできないのです。

山田市長

対等な関係で、という事は謳われているので、それは確かに対等でなければならぬし、館内のことなので、職員に対してもボランティアさんに対しても、一つは館長のリーダーシップになると思いますし、ただ、館長だけでは解決できない悩みを抱えているからこそここに課題として出てくると思うので、それは教育部全体で把握をしていただいて、組織として考えていただくという事なんだろうな、と思います。お互いの研修であったり、交流の場がない、ということであれば、それを図書館だけで考えなさい、ということが難しいのであれば、組織として考えていくということもあると思います。そこは、色々ご相談いただければと思います。

洞口委員

12月に100万人達成ということで、大変すばらしいことです。5年間、館長さんはじめ、大変ご苦労様でございます。本当に利用者が多いという事で、私も市民の声として聴いているのが、「居心地がいい、一日いてもいい」という方もいらっしゃるの、大変良かったと思います。ただ、本の数も増えているということで、ボランティアさんを使って整理というのにも必要になってくるのかと思いますが、今の話と重複しますが、職員とボランティアの方と、年に2回ぐらいは交流会をして、お互いの話を聞くのも一つの手なのかなと思っております。そうすればいい関係ができて、より一層、図書館の進み方が良くなるのではないかなと思います。あと、館長さんは分かっているかと思いますが、ずーっと居座る方もいらっしゃるの、ことで、気になっていました。なかなか難しいとは思いますが、声掛けなどの対応はどうなっているのかな、という事を一市民としてお伺いしたいです。

山田市長

先に2点目からお願いします。休憩場所のようになっているという事でしょうか。

柴崎図書館長

そうですね。どこの公共施設にもいらっしゃるかと思うのですが、朝からずっと一日中、図書館にお住まいなのでは、というくらいいる方もいます。

山田市長

特定の方でしょうか。

柴崎図書館長

いえ、何人もいらっしゃいます。

山田市長

それは、例えば高齢者が淋しいからいるという事でしょうか。

柴崎図書館長

高齢の方もいらっしゃるし、サラリーマン風の方もいらっしゃいます。どうしてここにいるんだろう、という方もいらっしゃいます。ただ、いるだけでは注意することもできませんし、夏場であれば臭いなどの問題も出てくるのですが、あまりにも利用者の方に迷惑をかけているような場合であれば声をかけることもあります。なかなか難しいです。

山田市長

1点目についてはいかがでしょうか。

柴崎図書館長

シフト制で、2交代制で、なかなか全職員が集まること自体が難しいのですが、なるべく機会を作りたいと思います。

山田市長

100万人もうれしいですし、市外の利用が半分あるという事は、名取駅を通過駅ではなくて目的地の駅にしたいというのが私の思いと非常に一致していて、図書館に来るために名取駅を利用されている方もいるという事だと思います。もちろん、名取に働きに来ていて、帰りに寄っていくという事もあると思うのですが、いずれ悪い傾向ではないと思います。貸し出しが少ないという中高生、学習目的で来ているとすれば、参考書などの品ぞろえはいかがでしょうか。

柴崎図書館長

書き込み式の参考書は図書館では購入しない方針なのですが、学習に役立つような本は取り揃えております。

山田市長

学習というか、受験に役立つような何か。自分で全ての参考書は買えない人が、図書館に行けば受験用の参考書が多く揃えてある、という事であればまた違うと思うのですが。

柴崎図書館長

そうですね。そのようなものも少しずつ入れていきたいと思います。今のところは赤本のようなものは無いのですが。

山田市長

赤本のようなものもありかな、と思います。今のところ順調に21万冊まで来たようなので。荒井委員お願いします。

荒井職務代行委員

今の話で申し上げますと、今時もっと増やそう、増やそう、というのは大変に贅沢な、素晴らしい悩みかな、と思いました。どこも皆図書館は手狭になってきていて、もう、本がいっぱいでどうしよう、というような話を伺う事もありますので。

いずれ、ここもいっぱいになるでしょうが、今のうちから取捨選択のようなことは何かなされているのでしょうか。

柴崎図書館長

今はかなり余裕があるので、除籍につきましても本当に壊れたものとか、そのようなものしか除籍していないのですが、いずれ選ばなければならぬ時期が来るかと思えます。蔵書計画でも、13年後に30万冊で何もしなければ満杯になる、というところなので、その前に何

らかの手立ては必要になるのですが、除籍した本につきましては、ただ捨てるのではなくて、市民に還元するというか、図書館では使わなくなった本ですが、欲しいという市民の方には提供できるように、今もリサイクルということは行っているのですが、それも引き続きやっていきたいと思っています。

荒井職務代行委員

ありがとうございます。

山田市長

長澤委員何かありますか。

長澤委員

基本理念が明確で、地域を支える知の拠点という言葉が大変素敵だと思うのですが、そういった図書館に近づいているな、という感想を覚えます。

先ほどからある、中高生の利用ですが、貸し出しというか、利用という意味合いでは、学校図書館の利用というのも、特に中学生辺りは多いのかな、と思います。私が勤務した学校でも、とてもたくさんの本を借りる、本好きな子がたくさんおりますし、これだけ借りていけば、市の図書館にはなかなか足が向かないのではないかと思います。

今後、他の図書館とのネットワーク等、そういうところは進んでいるのでしょうか。

柴崎図書館長

名取市以外の図書館とのネットワークについては、名取市図書館でも、図書館で持っていない本は、全国どこの図書館からでも借りられることになっております。県内ですと、宮城県図書館が中心となって、県外の図書館の本を取り寄せることができますし、北日本ブロックの図書館はそういう方法で本を借りることができますし、それ以外の図書館からも、本を借りることができる仕組みがありますので、それを利用しております。

山田市長

素晴らしいですね。

それでは、一部入っていますが、今後のあり方ですかね。地域を支える知の拠点施設として、地域に親しまれるために、という視点で、何かご意見・ご要望があればお願いします。

課題としては、公民館図書室との連携、学校との連携、司書さん同士の連携であったり、「なとと」さんとの連携のありかたなどが挙げられておりますが、何かあればお願いします。

洞口委員お願いします。

洞口委員

先ほど館長さんから、公民館によっても価値観が違うというか、考え方が違う、という話がありました。公民館の方の図書館も、もう少し充実してほしいな、と思います。少し目

立たない存在になっている公民館もあります。もう少し、公民館図書室を充実させてほしいと思います。

山田市長

確かに、品ぞろえにばらつきがあったり、そこを入れ替えしながら頑張っておられるのだと思いますし、職員の温度差、これは大きなことだと思います。

まず、ゆりが丘や那智が丘に行っている職員が45分だけで帰ってくるというのはどういうことなのでしょう。

柴崎図書館長

本日も行っており、午前中が相互台、午後がゆりが丘・那智が丘なのですが、一日の中でこなすとなると、滞在時間は45分となってしまいます。

山田市長

そういったところを「なとと」と連携してはどうでしょうか。ボランティアさんがいる程度数が増えてきて、グループごとに活動されているという事であったので、そういうグループがあっても面白いのかな、と思いました。もちろん、交通費や、事故があった時にどうするかなどの課題などはあると思うのですが。

柴崎図書館長

本を届けるということであれば、「なとと」に頼めるのですが、そこで本を貸出して、読書相談にのってというとなかなか難しいです。

山田市長

これは今1人で行っているのですか。

柴崎図書館長

1人です。

山田市長

1人ですか。一つは、「なとと」と連携できないか、ということと、もう一つは、本の相談をチャットボットを使って行い、いわゆるDXを使って、あまりお金のかからないアプリを利用して行う、という事も可能だと思うのです。今も、LINE通報で来たりとか、これからチャットボットで双方向でやりとりしたり、という計画もあるので、そのDXの流れで解決できることは無いか、という視点があってもいいかと思います。

あとは、公民館の対応についてはいかがでしょうか。公民館によってばらつきがあるという点については。

佐藤生涯学習課長

特段、館長の方から公民館図書についての話は聞いていないので、今の話を聞いて、対応が違うということですので、公民館長会議等で今後お話していきたいと考えています。

山田市長

地域を支える知の拠点なので、ぜひ、市内全域で、図書館の持っている財産を、どこの地域に住んでいても享受できるという形にするために、その支点の一つとして公民館があって、そこでの品ぞろえとか、対応が統一されるという事はとても大事なことだと思いますので、そういう視点でぜひ各公民館にお話いただければと思います。

佐藤生涯学習課

はい。分かりました。

山田市長

それでは、荒井委員お願いします。

荒井職務代行委員

学校との連携で、図書館を使った調べるコンクールがあまり伸びていないというお話があったのですが、これはこれで結構大事な業務の一つ、調査研究という柱になるものだと思います。一方で利用者数等を見ていくと、リファレンス数は増えているのですよね。とすると、大人向けのこのようなコンクールがあると、むしろそちらが起爆剤になるのではないかと思います。

柴崎図書館長

これは、大人の部もあって、大人の人にも参加してもらえないかな、と思って、夏に大人の自由研究コーナーというものを作りましたが、応募は伸びませんでした。もう少し仕掛けていって、郷土史などを研究している人はたくさんいますので、そういう人が出してくれればいいな、と思っております。

山田市長

長澤委員、学校側としてはいかがでしょうか。

長澤委員

やはり、調べ学習をするうえで、もちろんデジタル面の活用というものもあるのですが、長く置いておいて、家に持ち帰って、ゆっくり見るという面では、紙媒体が非常に大きいのです。デジタルとのバランスという事もあるのですが、要望があったら、是非導線を作っていただいて、物流の仕組みを整えていただければ、もっともっと増えると思います。

山田市長

そうですか。やはり物流の関係もありますね。

柴崎図書館長

そうですね。学校の授業で調べ学習をやるとなると、たくさんの本が必要となるので、学校だけでは賄いきれなくなり、100冊以上貸出することもよくあります。そういう時に、どうやって届けたらいいのかとなります。

瀧澤教育長

今はどうやって届けているのですか。

柴崎図書館長

学校によって、司書が取りに来たり、労務技師さんが取りに来たり、学校で考えていただいて取りに来ていただいております。

瀧澤教育長

労務技師さんは毎日教育委員会にくるので、その流れで図書館に回ってもらうのが一番いいですかね。

山田市長

学校なり、公民館もそうですが、そういった物流の流れみたいなものは、公民館ネットワークを最初に作る時に、課題だったのです。システムはすぐつながるけれども、実際の本の移動とか、相談とかはどうするのか、というのが最初から課題だったので、そこはやはり、持続可能なシステム、仕組みにしていくなためにも、今日は課題抽出ということで、解決に向けて何か考えていっていただきたいと思います。もちろん、予算がかかる事であれば相談いただきながら進めていただきたいと思います。

それでは、時間となりました。名取市図書館についても、非常にいい形で利用されているという事を皆さん評価されていると思いますので、是非それが今後、持続可能な形になっていくように、そしてさらに市内のネットワークがさらに広がっていく形になるように、色々と工夫を重ねていただければと思います。

では、以上で協議を終了しますが、事務局は本日の協議内容を十分に取り入れていただき、事業に取り組んでいただきたいと思います。

以上で本日の議題についての会議は終了とさせていただきます。

その他、事務局から何かありますでしょうか。

下山次長兼教育総務課長

特にございません

山田市長

無いようですので、以上で終了させていただきます。本日はお忙しいところありがとうございました。事務局へお返しします。

下山次長兼教育総務課長

本日は、大変活発な意見交換をしていただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、第16回名取市総合教育会議を終了いたします。大変ありがとうございました。

10 終了時刻

午後2時15分